

シリーズ・馬電の思い出

今年馬電は創立55周年を迎えました。そのタイミングで愛知県在住の岩田さんから、馬電の前身「菱電機器」当時の大変懐かしい、興味深い投稿を頂きました。何回かに分けてお届けします。ご期待下さい。

ノスタルジア [菱電機器] によせて (1)

194 岩田尚之

今年は馬電（前身の菱電機器時代を含めて）が出来て55年ということである。

ある人にその菱電機器が生まれたころの話を書いてみてはと勧められて、不確かな記憶を思い出し思いつくままに脈絡もコンセプトもない投稿となった。この時、下名は出向者約82名？の最年少者で、主にその目線で書いてみる。

記載の間違いと菱電機器と馬電になってからの混同はご容赦と訂正を。

★★★ 沿革

「菱電機器株式会社」の前身は、名古屋市にあった「三菱電機 家庭電器工場」通称「家電」である。馬電にある「菱風」や工場案内などに、菱電機器の前身は、名電の家庭電器工場といった記載が見受けられたことがあったが間違いで、「家電」は名電ではなく独立した場所名である。歴史を正しく伝えて欲しいと何度か申し出て訂正いただいた。（確かに所在地が名電と同じ構内であったり、名古屋からの出向者と応援者が多かったこともあって誤解されたのであろう）

（因みに菱電機器以前の、中電・静電は名電から独立した家電工場（後に製作所）で、洗濯機の日本建鉄(日建)は名電から機種移管された家電工場がある協力会社である）

工場（敷地 建物）の由来は、太平洋戦争時の日本陸軍戦闘機「隼」重爆撃機「呑龍」を作っていた旧中嶋飛行機（現富士重工業）の部品工場。前を通る国道354は当時滑走路にも利用されていたとか。中嶋飛行機の創始者はご存じ尾島町出身の偉人中島知久平さん。戦後は、GHQ（General Headquarters 連合軍総司令部）の進駐軍だか駐留軍に接収されていたところで、今も現役の本館をはじめ多くの建物の壁が白ペンキと青英数字で識別された名残をとどめていた。（想像するには横田基地等各地にある米軍キャンプを塀越しにみる木造建屋を）

昭和34年（1959年）4月 設立時、社長は電機で常務をされていた 平山謙三郎さん、工場長が名電工作部長で、後 電機専務の 八巻直躬 さん。（八巻さんは国際的なIEの専門家）そうそう、工場は尾島の現在地であるが、本社事務所は東京丸の内 三菱商事ビルの3階で2人の有能妙齡な才媛と数人の男性で本社機能を担っておられた。

★★★ 転任 休職 出向

小生のことで・・・ではあるが、家電から菱電機器へ移る社内での手続きを振り返ってみる。菱電機器ができたその年の春、係長の H さんに呼ばれ「これこれ然々で群馬県の尾島というところへ行ってくれ、俺たちも行く。期間は2～3年。社命であるから断るには相当の理由がなければならない、例えば君がいないと親が死ぬ！とか？」前半はともかく後半の言はきっと今ではおっしゃらないと思う。ウンもスンもなく「はい」。

社内の人事的な手続き（辞令）は、家電から本社へ転任（転任は勤務地が変わること、転勤は勤務地が変わらない場合ときいた）→ 本社を休職 → 菱電機器へ派遣。一般的に出向者と呼ばれていたが辞令上、実は、派遣社員であった。

5月6日着任。過ぎてみれば、2～3年がなんと20～30年以上に。しかし、それが善かったのか悪かったのかは多分名前が変わっても（死んでも）分からないであろう。

自分の過去の善し悪しは、自分が決めることではない。他人が決めること。自分では、善に対する悪、悪に対する善は、只単に思い(想像)にしか過ぎない。現に比較することはできない。若し比較するのであれば、六道輪廻、死に返り再び人に生き返って、反対の体験してみるしかあるまい。ただ、これからの行(ぎょう)については、他人がどう想うとも、自分の信ずる善で生きたいものである。（余談）

<つづく>

シリーズ・馬電の思い出

ノスタルジア [菱電機器] によせて (2)

194 岩田尚之

★★★★ ペギー葉山 と 試作工場

菱電機器の開所式典が 5 月に行われた。そのアトラクションにその時代の(今も)大スター ペギー葉山 さんが来てくれた。(ほんとうはお呼びして来ていただいた)

ペギー葉山 さんとはどんな縁があったかという、お父さんがダイカストメーカーを経営されていて(東洋ダイカスト?)電機と取引の大手だったことにあった。

さてアトラクションの会場は、工場内南東にあった試作工場。舞台は工場の南西隅に特設のペギーさん一人が乗れるパレット?の上。(バンドはなかった?)

歌ったのは、大ヒット中の「南国土佐をあとにして」その他は残念ながら覚えていない。

その試作工場、試作係はユニークな人材集団だった。係長の O さん、(卓越した技能の持ち主たち)班長の H さん、手仕上げの I さん、E さん、T さん、O さん 旋盤フライスの K さん、S さん ヘラ絞りの T さん、他の面々。

O 係長さんの「無難より失敗しても挑戦が上」の言葉に共感をおぼえ、試作の方々には沢山の無理を聞いていただいた。そして、自分もよく道具機械を使わせてもらった。数々のヒットと話題商品の開発にはなくてはならない部門の一つだった。

★★★★ ポンチ BOQ 木村屋

出向者と主に名電からの応援者は、寮・社宅はまだなく殆どの妻帯者・チョンガーは、太田市の、ポンチ、BOQ、尾島の木村屋旅館に分宿していた。

ポンチは、名がユニーク、郵便・荷物も太田市ポンチ字ポンチで届いた。正しくは太田市南銀座にあって木造 3 階建ての割烹旅館(本店は太田金山にあった「富山(フザン)荘」)

隣にいかがわしい連れ*み宿と向かいの 2 階に若い姉妹の住む床屋があったのを聞きつけてきて出歯亀よろしく覗き見、額を窓の外の樋で怪我をした猛者もいたとか。

BOQ(略称の由来は不詳)は、以前 GHQ の上官宿舎。全室ベッド(他は皆畳と持参の布団)敷地内に鉄平石造りの 25m プールとテニスコート 1 面があった。出向者の上級?仮宿。今は太田市社会教育総合センター、当時の面影はなにもない。木村屋は、尾島町の老舗旅館。

★★★★ 街 社員の評判

尾島町とか太田市内には夜な夜な社員がよく繰り出していた。まちのひとびとはそんな人々を(日中でも)「菱電さん」或いは「菱電キさん」と呼んでくださっていた。

「菱電さん」は街中で評判がよかった(と自惚れ)。呑み屋で付けをしない、身だしなみ(服装)がよい(私服)。等々。

比較として、菱電さんよりやや遅く近くの町へ来られた大阪由来の TS デンキさんの多くはナッパ服(作業服)で街へくりだし呑み屋へも付けが多かったとか。

<つづく>

シリーズ・馬電の思い出

ノスタルジア [菱電機器] によせて (3)

194 岩田尚之

★★★★ 電 (ひょう) 雷さま 空っ風

電、あまりにも印象が強かったので仲間に入れていただく。後述の雷の一部。時は6月中の頃夏とはいえど片田舎、ある日の午後、後にも先にもこんな凄い電を体験をしたことがない。ガラガラバリバリ雷鳴ではない、本館東南の設計室、屋根の上の音と艦砲射撃の如くの電の玉で窓ガラスが吹っ飛んでくる音だ、他の人たちとダンボールを持って押えに行くも御身大切と机椅子とともに部屋の奥へ逃げている。電の大きさまさに鶏卵大、形が想像できようか、卵のようにスベスベではなくまさに松かさの如き金平糖の親玉。その時自家用の車を持って通勤していた人は Fさんと Hさんの二人、幸い屋根に僅かな凹みですんだ。(当時の車のボディは厚鋼板) しかし、工場の南面全てのガラスと尾島町のお店と人家の南面ガラスは悉くバラバラ。

麦秋、田圃で実る刈取り寸前の麦の穂も悉く打ち首。

雷、尾島では御荷鉢の三束(山賊)雨といってゲリラ、一天俄かに搔き曇れば藁を三束束ねる間もなく夕闇と紛う程に暗くなり激しい雷雨がくる。上州の雷は男らしい。

凄い雷さまはピカゴロではない、光より先にバシッだ、大利根寮から観た凄いのは天から降りる稲妻と地から上る稲妻が地上数mで幾度も衝突した。

野良仕事をされていたご婦人の麦わら帽子の鉾に落っこちた不貞の雷公もいた。

空っ風、前の雷とカカア天下と合わせてお国名物とはいえそんな所そこらの台風より凄い。冬の終わりから春先にかけて雨上がりに赤城の山に雲がかかったらもう大変、まちは砂の嵐、尾島(今の南ヶ丘)にあった町営住宅では砂埃が天井裏では数cm積り、廊下も同様に箒クリーナーでは手に負えずバケツの水で流したとか。

後年、利根川のゴルフ場ではアゲンストの空っ風、手押しのカートは動かないわバンカーでは目が開けられないわ。この砂塵、小生は勝手に「上州スモッグ」と呼んでした。

近年、雷さまも空っ風もずいぶん優しくなったような気がする。

★★★★ 台風 大水

菱電機器ができたその年の9月、東海地方は巨大台風に襲われた今に残る伊勢湾台風だ。伊勢湾周辺と木曽三川(木曽川 長良川 揖斐川)河口近くの沢山の人が亡くなられ怪我をされ沢山の家が流され壊された。

出向者と応援者(事業立上げの短期的支援者)の多くの方が名古屋地区即ち東海地方に所縁あるため、急遽、被害調査と災害復旧に向かわれた。腰まで水に浸かりそれはそれは大変だったと。下名は実家と縁者が少し離れていて風害にはあったものの水害と人災には合わなくてすみ太田にいた。

伊勢湾台風とは比べものにならないが、菱電機器入社の採用面接試験が同じ年の2月に尾島であったと。このときも近くの川(石田川?)の水が出て道路などが通れなく面接に来た人たちも東京名古屋からの面接官も大変な思いをしたと聞く。(つづく)

◇ パソコンサークルメンバー作成のパソコン川柳全50首を、幹事(11名)に審査員になって投票して頂き、次の通り、大賞1首、優秀賞2首を選定しました。

- ・大賞グランプリ 「 老人会 パソコンやる人 すぐ役員 」 (千葉 武) (8票)
- ・優秀賞 「 パソコンが ダメヨダメダメ 拒否してる 」 (篠崎 辰夫) (4票)
- 「 パソコンを 毎日開き ボケ防止 」 (森田 昇夫) (4票)

祝 長寿
(喜寿)

熊沢 勉 様

太田市新田中江田町

77歳(1938/01/24)

町田 孝志 様

太田市下田島町

77歳(1938/01/25)

シリーズ・馬電の思い出

ノスタルジア [菱電機器] によせて (4) 194 岩田尚之

★★★ 慰安旅行バス スキーバス

慰安旅行、近年職場旅行なるもの死語に近くなっているという。菱電機器では一年に一度、工場中での慰安バス旅行(費用はもちろん会社持ち)があった。

川原湯温泉(ハッ場ダム計画前)日光 江の島 等々。
バスの台数が多くて、途中のドライブイン等休憩所で大変に時間がかかった記憶がある。
葉山だったか逗子だったか、姫こみ若者だけでの海水浴も思い出される。

スキー、個人とかグループとかで行ったときは、高崎駅前の仮眠所で1~2時間休んで汽車(煙のSLですよ)に乗って湯沢とか志賀赤倉へ行った。あるとき、湯沢へ行くとして行先が「直江津」とあって乗った。途中で社内アナウンス「次は横川」。慌てて飛び降り引き返したことも。(上越線も信越線も同じ行先の汽車があった)

当時スキーのリーダーは資材管理のK係長さん、取引先O工業のO専務がSAJ指導員、皆でOさんに教えていただき、あるスキー場でバッジテスト、SAJの白バッジ(1級)を何人か戴く、賄賂はないが大目を疑われても致し方ない、今も持っているもののスキー場では恰好悪くてつけてはいけない。

スキーバス、思い出深いのを三つ。

菅平、青木旅館、電機全社大会を主催するも雪がない、旅館の親父もヤケ酒。
赤倉、H太閤、集団食あたり。(食中毒?)
志賀高原、発哺、岩菅旅館、バスが満員補助席一杯、帰り何人かを誘って別行動、草津白根越えのツアー決行、快晴であの素晴らしい景色、雪とお釜の青きコントラスト一生の思い出。

★★★ 来所 有名人

菱電機器時代からひょっとして馬電時代初期にまたがるかもしれないが、前述のペギー葉山さんの他にも多くのタレント・スポーツ選手・芸能人など有名人が来所している。
その頃のそんな人を、敬称なしで名前のみを列挙してみる。

岡野俊一郎 石黒修 ジャイアント馬場 アントニオ猪木(密かに結婚前の倍賞美津子同伴)
永六輔 大沢悠里 フランク永井 バーブ佐竹 野村克也 等々。

以上、書き足りないこともあれど、また機会があれば。
この寄稿に恵まれたことに感謝感謝。また、拙文を読んで下さった皆さん方にも感謝感謝です。
ありがとうございました。

往生安楽國・鎮(おうじょうあんだーこう・チーン)

祝 長寿
(喜寿)

富岡 正志 様	太田市粕川町	77 歳(1938/02/03)
岡部 幹夫 様	桐生市新里町	77 歳(1938/02/27)